

下水道の将来戦略

横山 陽仁（みどり21）



Q 菊川の水質を守るため、一般会計から繰り出しても計画どおりにより抜く覚悟はあるのか。

A 平成7年度静岡県で策定された「菊川流域別下水道整備総合計画」において、下水道の早急な整備が必要な地区と位置付けられ、平成10年度から着手した。平成31年3月末309・6ヘクタールとなり、3714軒の内約8割の方に接続して頂いている。この結果、水質の改善効果が表れている。生活環境の改善及び一級河川菊川の水質を維持するためには必要な事業である。

Q きれいな川として、アユの遡上するような川のBODの値は。

A 大井川中流部あたりで0.5〜0.8ミリグラム／リットルであると公表されている。

Q 菊川と牛淵川の観測点におけるBODの値は。

A 高田橋付近の観測地点で1・7ミリグラム／リットル、牛淵川の場合は堂山橋で3・0ミリグラム／リットルとなっている。



菊川市浄化センター

Q 下水道のつなぎ込みについて残り2割となると、浄化槽があるからしたくないという人がいる。接続をしていただくには、相当なエネルギーをかけなければいけないが対応は。

A 管路工事の説明会、供用開始の時の説明会、供用開始後の戸別訪問において水質浄化の必要性や接続支援制度、融資制度、利子あわせん制度など個々に説明をさせていただいている。

他に「公会計制度への移行によるメリット」について質問しました。

原子力災害広域避難計画の実行性は

落合 良子（無所属）



プリを開発した。

市内全戸に原子力災害広域避難計画の概要版が配布された。南海トラフ地震は、今後30年以内に発生する確率が70〜80%と言われ、大津波を伴い被害は最大の場合、関東から九州に及び、死者は東日本大震災の約17倍の32万3000人と想定。原発がなければ広域避難計画はいらぬ。世界は環境負荷のない安心で持続可能なエネルギーへ移行している。

Q 自治会単位や、外国人、企業等への避難計画の説明会は。

A 自治会等は出前講座の開催をお願いしている。外国人や企業への周知は、今後の課題である。

Q 富山県に車で避難できる人数と渋滞対策は。

A 県の調査結果に基づき試算すると約1万3000世帯で3万7000人。渋滞対策については、3000世帯ごとの避難が一番効果的との結果から避難単位を割り振っている。

Q 住民への伝達手段の整備は。

A 同報無線や茶こちゃんメールを整備。県でも放射線状況確認ア



全戸配布された菊川市広域避難計画概要版

Q 家畜やペットの避難計画は。

A 多くの課題と検討事項があり、国・県・事業者と協議検討の中で実効性を高める取組みをしていく。

Q 浪江町は8年経っても帰還率10%未満、この状況の受け止めは。

A 原子力発電所の事故はあつてはならないと受け止めている。

Q 計画にある原子力事業者の責務が確実に実行できるのか。

A 施設の安全対策、事故を起こさない対策等、検討課題があり、国・県・事業者と協議を重ねたい。